

檜川村誌 原始・古代・中世編 / 目次

第一章 檜川村の概観	一
第二章 地理的状況	二
第三章 歴史	三
第四章 産業	四
第五章 文化	五
第六章 人口	六
第七章 交通	七
第八章 教育	八
第九章 宗教	九
第十章 民俗	十
第十一章 名所	十一
第十二章 参考文献	十二
索引	十三

村に根づいた人々 木曾・橿川村誌二 原始・古代・中世編

口 絵

刊行のことば

例 言

第一章 黎明期の橿川 …………… 一

第一節 更新世の人類と自然 …………… 三

一 更新世の人類 …………… 三

はじめに 猿人類の誕生 原人類とその文化 旧人類とその文化

新人類のはじまり

二 更新世の自然——氷河時代の環境 …………… 二

氷期と間氷期 氷河のつくりだした地形 火山活動とローム層 第四紀の海面変動

河岸段丘と遺跡

第二節 旧石器文化の展開 …………… 二〇

一 旧石器文化の成立と発展 …………… 二〇

前期旧石器時代の文化 中期旧石器時代の文化 野尻湖文化

後期旧石器文化のはじまり

二	旧石器文化の繁栄	二五
	ナイフ形石器を主とする文化	槍先形尖頭器の発達
	細石器を主とする文化	
	矢出川遺跡の細石器文化	大型石斧を主とする文化の出現
三	第三節 縄文時代のはじまりと人々の暮らし	三三
一	縄文文化のはじまり	三三
	縄文時代の移りかわり	草創期の暮らし
	暮らしの革命	東西文化の交流
二	定住生活と集落の発達	四一
	尖底土器から平底土器へ	ムラの発展と共同祭祀
	新しい技術の導入	生活基盤の安定と文化交流
四	第四節 縄文文化の繁栄	五六
一	縄文時代中期の中部地方	五六
	井戸尻文化の成立	縄文中期の文化と生活基盤
二	村内にのこる遺跡と遺物	五八
	檜川の縄文時代中期	ヤナバ遺跡の発見と発掘調査
	遺跡の概要と調査の成果	
	ヤナバ遺跡の成立と展開	ヤナバ遺跡での生業と暮らし
三	中期文化の爛熟と衰退	七四
	唐草文系土器と中期後葉の社会	縄文のムラと社会組織
	共同の祭りから家々の祭りへ	埋甕風習と中期社会の崩壊

第五節 縄文社会の衰退とあらたな胎動	八四
一 縄文後期の社会と文化	八四
後期文化の展開と檜川	柄鏡形敷石住居とその時代
二 縄文文化の終えんとあらたな胎動	八八
東西文化のはざま	ドングリリからコメへ
第六節 弥生時代の暮らしと社会	一〇八
一 弥生文化のはじまり	一〇八
稲作文化の開花	稲作農耕の普及
二 長野県の弥生文化のはじまり	一一二
条痕文系土器文化の波及	弥生文化の定着と発展
三 ムラの発展と南北二大文化圏の対立	一一九
天龍川と千曲川水系の弥生文化	農耕生産の向上
四 弥生時代社会の変質	一二五
弥生時代中期から後期へ	方形周溝墓のつくられた社会
銅鐸の祭り	と農耕社会
写真図版 (PL 1、16)	一三二
第二章 吉蘇路のなかの檜川	一四七

第一節 古墳時代の社会と文化 一九九

一 権力の象徴としての古墳 一四九

畿内型古墳の出現 弘法山古墳の築かれたころ 森將軍塚古墳と川柳將軍塚古墳

長野県の中期古墳時代

二 古墳時代社会の展開 一五七

横穴式石室の普及 積石塚古墳を築いた人々 古墳時代のムラと生業

工人集団の出現 古墳から寺院へ

第二節 律令制度の成立と木曾 一六五

一 国制の成立と木曾 一六五

シナノの成り立ち 信濃と美濃と木曾の位置 新しい制度 律令制度のあらまし

信濃の郡・郷と楡川の位置

二 官道の設置と木曾 一七六

官道の設置 木曾は信濃の入口か 岐蘇山道と吉蘇路 吉蘇路は木曾路か

第三節 律令制度の変質と木曾 一八七

一 国境の確定と楡川 一八七

信濃と美濃の国境争論 国境争論のしめすもの 吉蘇・小吉蘇村はどこか

県坂山岑の読みかた やはり「県坂」は鳥居峠?

二 新興豪族の出現と荘園・公領 一九四

木曾道と新興豪族の出現 平将門の乱と木曾道使 木曾の荘園と公領
 信濃国大吉祖荘と美濃国小木曾荘 洗馬荘と檜川

第四節 古代木曾の社会と文化 二〇三

一 奈良時代の社会 二〇三

律令制度における郡・郷 律令制度における村落制度 堅穴住居から平地住居へ
 食生活と生業 衣生活

二 平安時代の社会 二一一

古代村落の変質

三 西町裏遺跡と千坪遺跡 二一七

平安時代の木曾の人々 檜川村の平安時代

四 歌枕と木曾 二二三

歌枕とはなにか 歌枕としての木曾

五 信仰と伝承 二二七

木曾の信仰 木曾谷の寺と古代創建伝承 観音寺の田村麻呂伝承

第三章 木曾を駆けぬけた武士たち 二三五

第一節 源平争乱と木曾義仲 二三七

一 武士の成長と木曾義仲……………三三七

義仲出生の謎 源義賢の経歴 源氏の棟梁の争い 駒王丸の運命

保元の乱の勃発 木曾中太・弥中太 平治の乱と信濃 平氏政権と信濃

二 木曾義仲の進撃……………二五八

義仲成長の地 義仲成長の地は木曾か 義仲騎馬軍団の成立 反平氏の動き

木曾義仲の挙兵 上野武士の義仲軍入り 横田河原の戦いと信濃の掌握

北陸道の小競り合い 頼朝と義仲の不和 義仲の京上 義仲の入京

三 義仲の没落……………二八六

水島の戦い 法住寺のクーデター 義仲の滅亡

第二節 鎌倉幕府と木曾……………二九五

一 鎌倉幕府の成立と木曾……………二九五

鎌倉幕府の成立と信濃武士 鎌倉幕府の信濃支配 将軍頼家と比企事件

二 承久の乱と木曾……………三〇一

信濃守護の交替と陰謀事件 承久の乱の原因 乱の勃発と三手の軍

東山道軍の構成と木曾道 乱の終結と乱後の措置

三 執権政治と木曾……………三二〇

知行国と信濃 信濃の南端と木曾 三浦氏の乱と執権政治 時頼の廻国伝説

目次
第三節 南北朝の内乱と室町幕府と小木曾荘……………三七七

一	鎌倉幕府の滅亡と南北朝の内乱	三二七
	小木曾荘の伝領と領域	
	鎌倉幕府の滅亡	
	中先代の乱	
	南北朝の内乱と木曾	
二	観応の擾乱と小木曾荘	三一九
	観応の擾乱と信濃武士	
	半済令の発布と兵糧料所	
第四節	中世前期の社会と文化	三三三
一	小木曾荘と「検注雑物日記目安注文」	三三三
	検注使の入部	
	検注使の接待	
	銭何枚が百文か	
	品物による計算方法の相違	
二	義仲伝承と木曾	三四二
	義仲伝承のひろがり	
	義仲をめぐる人々	
	義仲をめぐる女性たち	
	巴をめぐる	
第四章	下剋上を生きぬく檜川	三五五
第一節	木曾氏と武田氏のはざままで	三五七
一	木曾氏の発展	三五七
	信濃四大将の一人木曾氏	
	初期の木曾氏の史料	
	木曾氏の出自と経歴	
	木曾氏の初期の根拠地	
	木曾氏の系図	
	武田氏侵入以前の木曾氏	
	戦国時代前期の史料	
	武田氏侵入以前の木曾氏文書の特徴	
	戦国時代前期の木曾氏の木曾支配	
	通説への疑問	
二	武田氏の木曾侵略	三九〇

伝説的な木曾氏と武田氏の遭遇	木曾氏と武田氏の最初の接触	四〇九	
塩尻峠の合戦と木曾氏	信玄の最初の木曾攻撃	信玄の動き	洗馬氏の滅亡
信玄の本格的な木曾攻撃	木曾氏の降伏	武田信玄の戦略について	信玄の意図
木曾氏の木曾支配	……………	……………	……………

鳥居峠以北と木曾氏の勢力	賛川氏と奈良井氏	三村氏と木曾氏	四二八
奈良井氏の位置	武田氏のもとの木曾氏の宛行	木曾氏の家臣団	
木曾氏の家臣たち	木曾氏の領域	寺社の支配	
武田氏の木曾支配	……………	……………	……………

木曾氏と武田氏	木曾の武田氏文書	木曾氏家臣と武田氏	伝馬制度と木曾氏	四四五
妻籠の持つ意味	領域境と市	欠落への対処	武田領国のなかの木曾氏	
第二節 武田氏の滅亡と木曾氏の動き	……………	……………	……………	……………

一 武田氏の滅亡	……………	……………	……………	……………	四四五
長篠の合戦以後の武田氏	体勢のたてなおし	木曾義昌と織田信長			
義昌が織田氏に來援をもとめる	鳥居峠の合戦	武田氏の滅亡	民衆の動き		
檜川村にのこる武田氏の傳承	……………	……………	……………	……………	……………
二 木曾氏の府中侵入	……………	……………	……………	……………	……………

義昌への知行付与	義昌の安曇・筑摩郡支配	織田信長の死と信濃の混乱	四六〇
第三節 徳川家康・豊臣秀吉と木曾義昌	……………	……………	……………

一 木曾義昌と徳川家康	……………	……………	……………	……………	四六五
-------------	-------	-------	-------	-------	-----

混乱する安曇・筑摩両郡 小笠原貞慶の深志城回復 本山の戦い
家康による義昌の所領安堵

二 木曾義昌と豊臣秀吉 四七九

錯綜する安曇郡と筑摩郡 義昌の動き 秀吉と家康 秀吉とむすんだ義昌

三 小笠原貞慶と木曾義昌 四八七

小笠原貞慶の動き 小笠原貞慶の木曾侵攻 妻籠城の戦い 後庁勝親の死

四 義昌の移封 四九九

その後の木曾支配 義昌の移封とその後 伝承からみた戦国時代の木曾氏

第四節 奈良井氏・贄川氏からみた戦国時代 五〇四

一 伝承からみた奈良井氏 五〇四

従来の奈良井氏の評価 奈良井氏の出自 奈良井の位置 奈良井氏の居館

二 揺れ動く奈良井氏 五一五

武田氏の木曾侵入と奈良井氏

三 木曾氏の家臣としての奈良井氏・贄川氏 五三三

奈良井氏の立場 木曾氏の家臣として

四 武田氏配下の奈良井氏 五二六

伝馬制度と贄川・奈良井氏 奈良井氏にあてた勝頼の文書

奈良井氏あて武田氏文書の意義

五 奈良井氏・贄川氏の木曾義昌への反乱……………五三三

奈良井義高が木曾義昌に殺される 贄川又兵衛の動き 木曾氏と小笠原氏のはざま

第五節 戦国時代の社会と文化……………五四〇

一 信濃と美濃のはざまの木曾……………五四〇

木曾はどの国 武田氏にとつての木曾 諏訪社と木曾

織田信長などの木曾にたいする意識

二 宿駅としての奈良井・贄川……………五四五

木曾谷の交通 境峠と奈川 王滝と飛驒 宿で繁栄する奈良井・贄川

伝馬制と馬

三 戦国時代の生業……………五五三

木曾谷の農業 林業 狩猟 職人たち 木曾馬 交通とのかかわり 木曾の市

四 食物と生活……………五六三

作物などからみた食事 住居など 欠落する被官

五 現在につながる寺と神社……………五七〇

神社の縁起 寺の由緒 御嶽信仰 戦国時代の宗教の特徴

原始・古代・中世年表……………五七九

あとがき

執筆者名簿

檜川村誌編纂委員会委員名簿

檜川村誌編纂委員会事務局名簿

檜川村誌調査協力員名簿